

出 題 の 趣 旨

< 民 法 >

問題 1

この問題は、賃借権の第三者に対する効力についての基本的な理解を問う問題である。

小問(1)は、いわゆる「賃借権の対抗力」に関する問題である。また、民法の特別法である借地借家法について、どの点が借地人保護になっているのかをも問う。

小問(2)は、いわゆる「賃借権に基づく妨害排除」の問題であるが、「対抗力」との関係についても論ずることを求めている。

問題 2

この問題は、無権代理行為の相手方の保護についての基本的な理解を問うものである。

小問(1)では、表見代理の成否や無権代理人の責任が論点となる。しかし、より広く相手方の取消権や不法行為の成否も含めて、無権代理行為の相手方がどのような請求をなしうるかを、的確に論じることが求められる。

小問(2)は、無権代理人が本人を共同相続した場合における無権代理行為の効果を問う基本的な問題である。無権代理行為が有効となるかにつき、理論的な根拠を明確に示して論述することが求められる。

< 経 済 学 >

問題 1

この問題は、ゲーム理論の知識として、クールノーのモデルにおけるナッシュ均衡の理解を問うものである。小問(1)では、古典的なクールノー・モデルの解を求めればよい。小問(2)では、情報の非対称性を仮定するとき、小問(1)の状況がどのように変化するかを示すことが求められている。

問題 2

この問題は、IS-LMモデルの構造についての基本的な理解を問うものである。

小問(1)では、IS曲線が右下がりになる理由を問うているが、貯蓄が利子率に影響を受けるということを考慮した説明を求めている。小問(2)では、 $\partial S / \partial i$ の値が増加するときのIS曲線の傾きの変化を正しく理解しているか、さらにそのような変化が生じた場合の金融政策の有効性への影響を正しく理解しているかを問うている。

< 会計学 >

問題 1

小問(1)は、キャッシュ・フロー計算書に関する基本的な知識及び損益計算書との違いについて明確な理解をしているか、小問(2)は、建設業における長期請負工事についての収益の認識基準についてその理解を問うものである。企業会計原則上、工事完成基準と工事進行基準との選択適用が認められている。収益認識基準として、前者は実現主義が適用されており、後者は発生主義が適用されている。

問題 2

小問(1)は、企業の安全性を判断する際に使用される代表的な指標である流動比率と他人資本対自己資本の比率について、現実の取引がこれらの比率にどのような影響を与えるかを問うている。小問(2)及び(3)は、流動比率について、流動・固定の分類基準と流動比率の見方を問い、小問(4)では、他人資本対自己資本の比率に関連して、減価償却の資金留保効果を素材とし自己資本の意味を考えさせている。これにより、会計学の知識はもちろん、財務諸表による企業の安全性の判断能力をもみようとしている。

< 不動産の鑑定評価に関する理論 >

問題 1

この問題は、不動産の価格形成要因についての理解を問うものである。小問(1)では、一般的要因の意義について、小問(2)では、そのうちの経済的要因の意義等について、小問(3)では、一般的要因と地域要因等との関係及び想定上の条件を付加する場合の留意点について、的確に説明することを求めている。

問題 2

この問題は、鑑定評価によって求める価格の種類についての基本的な理解を問うものである。論点は、価格概念に関する基礎理解であり、小問(1)では、正常価格の前提となる市場について、小問(2)では、特定価格を求める場合の例について、不動産鑑定評価基準及び留意事項に照らし、それぞれの価格の特徴を踏まえて的確に説明することを求めている。

問題 3

この問題は試算価格の調整に関し基本的な理解を問うものである。小問(1)では、各試算価格の費用性等のそれぞれの特徴と、調整が試算価格の再吟味と各試算価格の有する説得力の判断からなる作業であること、小問(2)は、再吟味が説得力に関する判断に先行するが実務的には両者は反復作業であること、小問(3)は、一つの評価手法には3方式の価格の捉え方が複合的に組み合わされているため、各方式による価格形成要因の扱いに矛盾がないかを再確認する意味があること、を的確に説明することを求めている。

問題 4

この問題は、貸家及びその敷地の鑑定評価についての基本的な理解を問うものである。小問(1)では、鑑定評価額を求めるために総合的に勘案すべき事項のうち一時金について、小問(2)では、収益価格を求めるために重要となる純収益についての理解を問うものであり、不動産鑑定評価基準及び留意事項の趣旨に照らし、的確に説明することを求めている。